



孤独死・孤立死を防ぐセーフティ・ネット

日本国憲法第二五条で生存権が保障されているにもかかわらず、支援を受けられず孤立死に至る事例が断ちません。「ゆくはし記念病院のひろば」では、この問題についてこれから随時掲載して参ります。

現在、孤独死・孤立死の明確な定義はありませんが、「誰にも看取られることなく息を引き取り、その後、相当期間放置されるようなこと」（高齢社会白書：内閣府）と表現されています。

孤独死が起きやすい生活環境や生活形態としては、高齢者、配偶者と離別・死別した人、未婚、親族がいなかったり親族付き合いのない人、持病のある人、仕事をしていない人などが挙げられます。このような「関係の貧困状態」にある人々は、時代とともに増えています。未婚高齢者は、二〇〇〇年では五八万人でしたが、二〇一五年では一五五万人、二〇四〇年には二五五万人に達すると予測されます。（国立社会保障・人口問題研究所）

厚生労働省は平成二四年に都道府県に孤独死に関する通知を出し、支援対象者を高齢者のみの世帯、高齢者および障害者および障害者単身世帯のみならず、生活困窮世帯（要保護世帯）、高齢者や障害者のいる世帯などの他支援を必要とする世帯としています。次号より、問題を絞って、慢性疾患患者や障害者のいる世帯（医療の対象となる事例）、公的機関や医療機関と接点のない世帯などに分けて、問題点と解決の手順を探っていきます。

行橋記念病院 地域生活支援室

多職種研修会 R1.11.27 ウィズゆくはしにて



のぐちクリニック
野口 隆義 先生

医療・介護関係 対象研修会
『多職種が知っておきたい
精神疾患について』



行橋記念病院
精神看護専門看護師
工藤 聡美 氏

多数の方々にご参加頂き、
ありがとうございました！



多職種研修会には200名を超える多くの方々にご参加頂きました。多職種の方に精神疾患についての更なる理解を深めて頂くとともに、日々患者さんと接している中で培ってきたノウハウをお伝えすることができたのではないかと思います。当院には今回研修で講義させて頂いた精神看護専門看護師の工藤聡美氏の他にも認知症看護認定看護師の深津紘一氏、長年の精神看護のキャリアを持った看護師もいますので、研修などでお役に立つことができたらと思っています。
看護部長 古場 知子

参考までに、各関係機関の相談窓口の電話番号を記しておきます。

行橋市社会福祉協議会 0930-23-1111
ゆくはし生活相談センター 0930-55-6665

行橋記念病院 外来診療ご案内

0930-25-2000(予約制)

		月	火	水	木	金	土
精神科	再診 (予約制 午前・午後)	森 外園 執行 満 怜児 正倫	一 大澤 (副田) 甲 真一 秀二 則 男 一郎	森 執行 中島 満 正倫 康裕 三木珠津子 (AM)	中野 大澤 中島 勝文 真一郎 康裕 文 (AM) (AM)	中野 外園 下中野 勝文 (AM) 怜児 (AM) 大人 (AM)	一 副田 甲 秀二 則 男 (2・4)
	初診 (予約制 午前)	一 中 甲 島 則 康 男 裕	外園 怜児	大澤 真一郎	森 中島 満 康裕 (PM)	執行 中野 正倫 勝文 (PM)	※診療時間外の受診については お電話でご相談ください。
神経内科	初診・再診		本村 暁			本村 暁 (AM)	

※当院は『初診・再診ともに予約制となっております』
診察をご希望される方はまずはお電話でご相談下さい。



＊ 中村 哲さんのこと ＊

「人間はいつたい、何とということをするものであるか」
 二〇一九年十二月四日、中村哲さんが銃撃により落命された。彼の死については多くの人が追悼の文を書いている。私は「中村哲さんのこと」という文を書く立場にはないのかもしれない。しかしここでは、遙か四十年前に職場を共にした者として、パキスタン、ベシヤワールへ渡る前の思い出を中心に一文を綴ってみたい。ここでは先輩としての中村先生でも、友人がそう呼んでいた「哲ちゃん」でもなく、中村さんとして書く。

中村さんは精神科医としてスタートし、神経内科へ転じ、日本神経学会の専門医も取得している。転身の理由については、半生を描かれた書「ドクター・サブ」の中にもはっきりとは述べられていない。勤務していた大牟田労災病院に筆者も二年間勤務した。小柄で寡黙。とつときにくそうだがユーモアがあり、複雑で魅力的な人という印象であった。若いローテートの医師をつかまえては脳波の読み方を教え、借りてきた剖検資料を手にとって「ここが基底核で、」と脳の解剖を薄暗い医師室の隅で講義していた。私は非常勤医であったが、一緒に病棟回診をし、当時ともに症例研究していたクロイツフェルト・ヤコブ病について論じあつたこともある。後に、私も中村さんも専門誌に論文として投稿し、ともに掲載されている。その他、眼球運動や高次脳機能障害に関心が深く、これらを話題にすることが多かった。長崎での神経学会地方会発表の帰路、運悪く(?) 黒岩義五郎教授と同席になり、長崎から博多まで彼の発表内容について延々討論となつた。約二時間である。

キミ、あれは飛躍だよ、
 貴方はそうおっしゃいます、
 中村さんは一歩も引かない。同じ光景は後年、参議院の参考人質疑を見た。彼が自衛隊のインド洋派遣について、ヤジの中で、キツと睨み返して「百害あつて一利なし」と断じたのをみて、あのときと同じだったなと感じたものであつた。
 パキスタンへ移つてからの活動は数多く記されているが、印象的だったのは初期の著書「ベシヤワールにて」の中で、レプラによる末梢神経炎のために痛覚脱失が生じ、足底におこつた褥瘡を「うらさず」と呼び、治療器具として古タイヤを切り、サンダルをつくる作業を延々と続ける話である。紙幅の関係でその他の事柄は全て省くが、この本質を掴む怖ろしいような深い洞察力と、他に比肩するもの無しの行動力のある人であつたのは、万人の認める処である。

パキスタンからソ連侵攻後の混乱のアフガニスタンへ活動の場を拡げ、診療所の建設から井戸、水路の建設へ事業が展開する様をメディアの記事では知りながら、多忙に紛れ意識の表面から薄れかかっていたのも事実である。ところが、二〇〇一年九月十一日の

同時多発テロの後のアフガン爆撃の記事を目にして、あつあそこには中村さんがいる!と再認識したものであつた。渡航後に会つたのは三回だけである。羽田空港の待合室、同時多発テロの後に行橋で開かれた医師会の講演会、そして二〇一四年日本神経学会総会の特別講演。行橋の講演の後には帰り道、1時間程二人だけで話す時間があつた。日焼けした顔、白くなつた髪と髭。五ヶ国語位喋れるという。夥しい不条理な死を見てきたはずであるが、穏やかな口調は四十年前と同じであつた。子供さんの病気の事(これは後の著書にも書かれている)、現地での国連職員とのやりとりのさまざま。

日本は今も敵国なんですよ。え、どうしてですか?
 なるほど国連に「敵国条項」というものがあることは知つていた。何か揉め事があると、決まつて今も、日本、ドイツ、イタリアが組むことになる、

最後に会つたのは神経学会学術大会の特別講演で福岡に戻つた時であつた。どうして僕が呼ばれたんかねえ。大会長が先生と一緒に大牟田に勤めていたからですよ。へえ、じゃあ、また「アフガンに命の水を」と題された特別講演は、日本神経学会の学術大会としては異色のものだったろう。聴いて私が実感したのは、この人の社会貢献はさまざまに解釈されているが、原点はあくまで臨床医のそれであるということであつた。脱水症の患者に葉だけ与えても効果はない。地球のお医者さん、という言葉が湧いてきた。治療中だ、争つる場合じゃない。邪魔するな!という強面のERドクターの顔があつた。そこには、良質の医師の心の中に埋み火のようにひそむ、義侠心めいたものがあつたのではないか。

どこでも、口調は同じである。天皇、皇后両陛下から皇居に招かれた後の会見でも全く同じ口調で「意外なところに理解者がおられた」とぼそぼそと話し、淡々としたものであつた。

あまりにも大きな死であり、気持ちを表す言葉がみつからない。いかなる言葉も彼の行為の前には軽くみえる。その中では「崇高な犠牲」という村上優ベシヤワール会会長の言葉が最もそぐわしいものかもしれない。敵も味方もない、善人と悪人がいて共生するのが人間社会、といい、キリスト教信者でありながらモスクとイスラム神学校を建てる。これはもはや、神の仕業とさえ思えるのである。土囊を担ぎ埃だらけの服で歩く姿は、人間社会の重荷を背負い、坂を上っていく聖人の姿に重なる。

ここまで書いて、この文には結びの言葉がみつからない。ただ、中村哲さんの多くの友人の中の末席に座ることができたのを、私は生涯の喜びとしたい。

(本村 暁)

＊ 編集後記 ＊

はじめまして。看護師の増永です。昨年の十月より地域医療連携室に配属となりました。

これまで病棟以外での勤務経験がなく、まだまだ不慣れなことが多いですが、諸先輩方からのご指導を頂きながら、粉骨碎身の気持ちで頑張りたいと思います。地域の皆様方に少しずつでも、顔と名前を覚えて頂けたら幸いです。

よろしくお願ひ致します。

地域医療連携室 増永 純一

アクセス



医療法人社団
翠会

ゆくはし記念病院のひろば
 発行日 令和2年2月3日
 発行所 行橋記念病院
 (発行人 一甲 則男)
 次回発行 令和2年4月1日

「ゆくはし記念病院のひろば」は
 行橋記念病院のホームページで
 閲覧できます。

<http://www.yukuhashi-hp.or.jp>